ファイル

② 麻疹（ましん）

女性のための健康ファイル

千葉県内で麻疹の発生が報告されています。今回は麻疹と妊娠についてご説明致します。

麻疹は、麻疹ウィルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状の後に39℃以上の発熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併し易く、患者の0.1%に脳炎が発症するとの報告もあります。麻疹ウィルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染でその感染力は非常に強いと言われています。

妊娠中に麻疹に感染することは稀で、妊娠10万に対し4～6件とされています。しかし日本の抗体陰性妊婦は5～10%とされ注意が必要です。成人の麻疹は重症になり易く、妊婦の麻疹感染はさらに重症化すると言われています。上記合併症に加え、流早産の原因となりますが、胎児奇形は引き起こさないとされています。

妊婦の方で麻疹を疑う症状があったり麻疹患者との接触があったりした場合は、まずは電話でかかりつけ医に相談することをお勧めします。必要に応じて抗体検査を行うか、症状によっては専門の基幹病院への紹介となる場合もあります。麻疹ウィルスは感染力が強く、ケースごとの対応が必要とされています。